

### 【集中治療室部門におけるサーベイランスの概要と目的】

集中治療室 (ICU) 部門は、ICU における人工呼吸器関連肺炎、尿路感染、カテーテル関連血流感染の発生状況<sup>1)</sup>を監視し、その原因菌に関するデータを参加医療機関から収集している。各感染症について全参加医療機関の感染症発生率を 1,000 患者・日当たりで算出<sup>2)</sup>し、感染症発生率の分布と合わせて一般公開している。また感染症別に原因菌の分離件数を算出している。

これらのデータによって、ICU におけるデバイス関連感染症防止対策を支援することを目的としている。

### 【解説】

#### 1. 参加医療機関数、解析対象患者数

今回の年報 (2009 年 1 月～12 月) におけるデータ提出医療機関数は、104 医療機関であった。ICU 入室患者数は 61,574 人で、このうち熱傷患者および ICU 在室日数が 2 日以内の患者を除いた解析対象患者数は 21,621 人 (35.1%) であった。解析対象患者数の中央値は 179 人、平均値は 208 人であった。

昨年と比較し、解析対象患者数は約 1,200 人増加した。医療機関数および解析対象患者数の中央値、平均値はほぼ同様であった。

#### 2. 解析対象患者の患者・日

解析対象患者の患者・日は合計 202,560 患者・日で、中央値は 1,608 患者・日、平均値は 1,948 患者・日であった。

昨年と比較し、患者・日は 15,800 患者・日増加した。

#### 3. 感染症発生率

感染症の発生数は合計 848 件であった。人工呼吸器関連肺炎の発生率が 2.5 件/1,000 患者・日 (507 件) と最も多く、次いでカテーテル関連血流感染症が 1.1 件/1,000 患者・日 (224 件) で、尿路感染症が最も少なく、0.6 件/1,000 患者・日 (117 件) であった。

感染症の発生数は昨年と大きく変わらず、個々の感染症の発生率も著明な変化は認められなかった。

#### 4. 原因菌

培養検査が行われた件数は 1,131 件で、原因菌として最も多いのが、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) が 23.5%、次いで緑膿菌が 14.0%、表皮ブドウ球菌が 5.7% であった。上位 2 菌種は昨年と変わりなかった。

人工呼吸器関連肺炎で培養検査が行われた件数は 700 件で、MRSA が最も多く、30.3% を占め、次いで緑膿菌が 15.4%、*Stenotrophomonas maltophilia* が 7.0% であった。カテーテル関連血流感染症で培養検査が行われた件数は 285 件で、表皮ブドウ球菌が 18.2% で最も多く、次いで MRSA が 16.5%、緑膿菌が 8.1% であった。尿路感染症で培養検査が行われた件数は 146 件で、大腸菌が 23.3% で最も多く、次いで緑膿菌が 18.5%、*Enterococcus faecalis* が 8.9% であった。

#### 5. 精度管理について

解析対象患者数を全入室患者数で除して 90% を超えていた場合、人工呼吸器関連肺炎発生率が 20% を超えていた場合、カテーテル関連血流感染症発生率または尿路感染症発生率が 10% を超えていた場合、すべての感染症発症患者数がゼロであった場合は、医療機関に問い合わせを行い、データに疑義が生じた場合は集計から除外した。

1) 判断基準については [http://www.nih-janis.jp/section/standard/standard\\_icu\\_ver1.2\\_20100112.pdf](http://www.nih-janis.jp/section/standard/standard_icu_ver1.2_20100112.pdf) を参照。

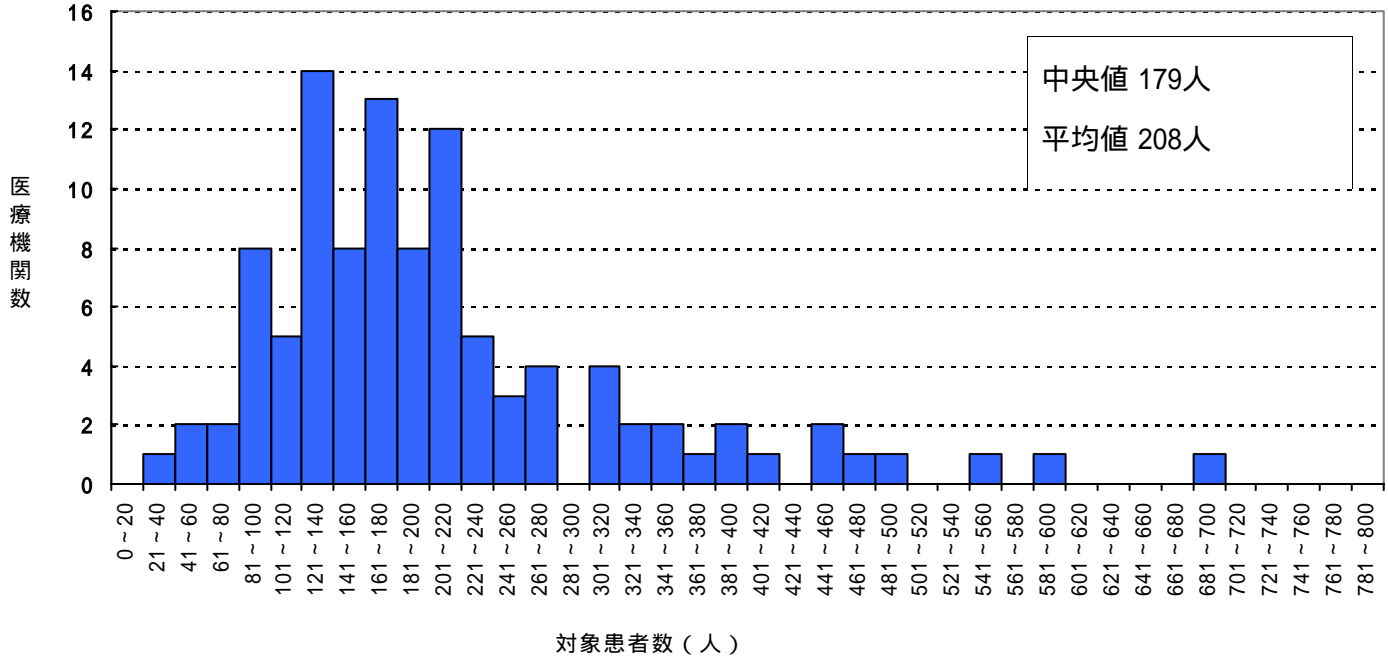
2) 米国 CDC が行っている NHSN における単位は 1,000 デバイス・日を用いているため、JANIS のデータとの比較には注意が必要である。

# 院内感染対策サーベイランス公開情報 ICU部門 2009年報(1月～12月)

## 1. 集中治療室入室患者数

ICU入室患者数*	解析対象患者数**	1医療機関あたりの解析対象患者数(平均値)***	各医療機関の解析対象患者数の分布
61574	21621	208	

各医療機関の解析対象患者数の分布



\*: 熱傷患者を除く

\*\* : 熱傷患者、ICU在室日数が2日以内の患者を除く

\*\*\*: 1医療機関あたりの解析対象患者数(平均値) = 解析対象患者数 ÷ 参加医療機関数

データ集計日: 2010年10月28日

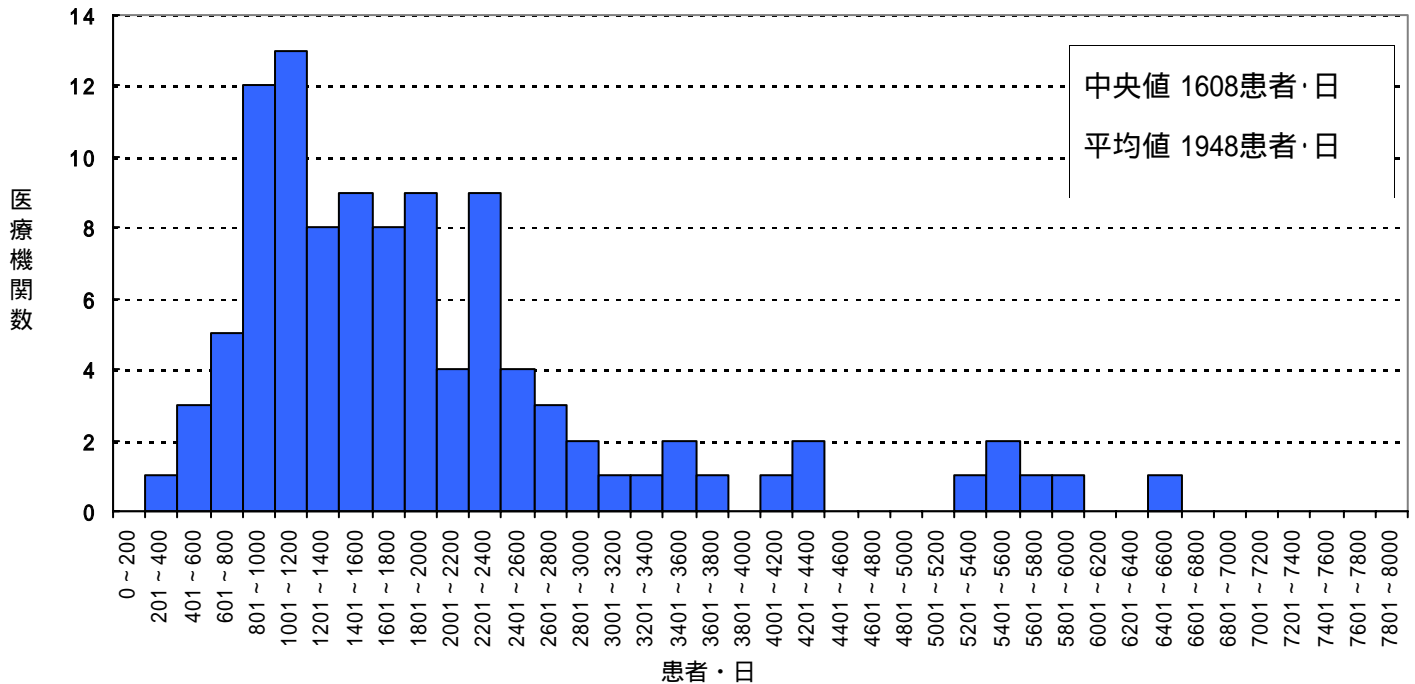
公開情報掲載日: 2010年12月09日

# 院内感染対策サーベイランス公開情報 ICU部門 2009年報(1月～12月)

## 2. 解析対象患者の患者・日

全参加医療機関患者・日合計	1医療機関あたりの患者・日(平均値)*	各医療機関の患者・日の分布
202560	1948	

各医療機関の解析対象患者の患者・日分布



\*: 1医療機関あたりの患者・日(平均値) = 全参加医療機関患者・日合計 ÷ 参加医療機関数

データ集計日: 2010年10月28日  
公開情報掲載日: 2010年12月09日

# 院内感染対策サーベイランス公開情報 ICU部門

## 2009年報(1月～12月)

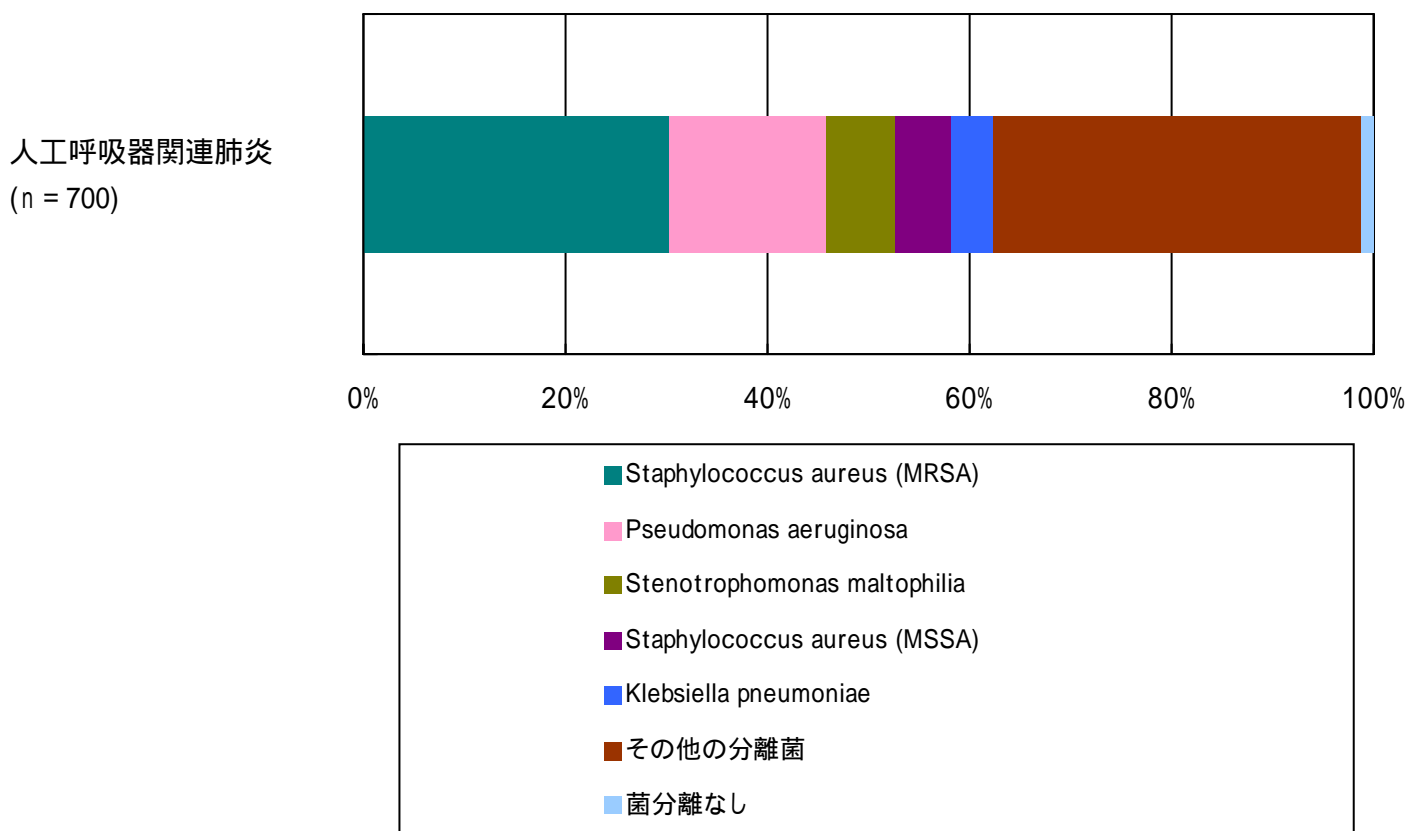
### 3 . 感染症発生率

	全医療機関 合計発生数	感染症発生率 (件/1000患者・日) *	感染症発生率の参加医療機関分布
人工呼吸器関連肺炎	507	2.5	 18.5
尿路感染症	117	0.6	 5.8
カテーテル関連血流 感染症	224	1.1	 11.9

\*: 感染症発生率(件/1000患者・日) = (全参加医療機関合計発生数 ÷ 全参加医療機関患者・日合計) × 1000

データ集計日: 2010年10月28日  
公開情報掲載日: 2010年12月09日

4 . 感染症別原因菌（人工呼吸器関連肺炎）



原因菌 *	原因菌分離件数 ( % )	
Staphylococcus aureus (MRSA)	212	(30.3%)
Pseudomonas aeruginosa	108	(15.4%)
Stenotrophomonas maltophilia	49	(7.0%)
Staphylococcus aureus (MSSA)	38	(5.4%)
Klebsiella pneumoniae	30	(4.3%)
その他の分離菌	255	(36.4%)
菌分離なし	8	(1.1%)
合計	700	(100.0%)
培養検査なし	0	

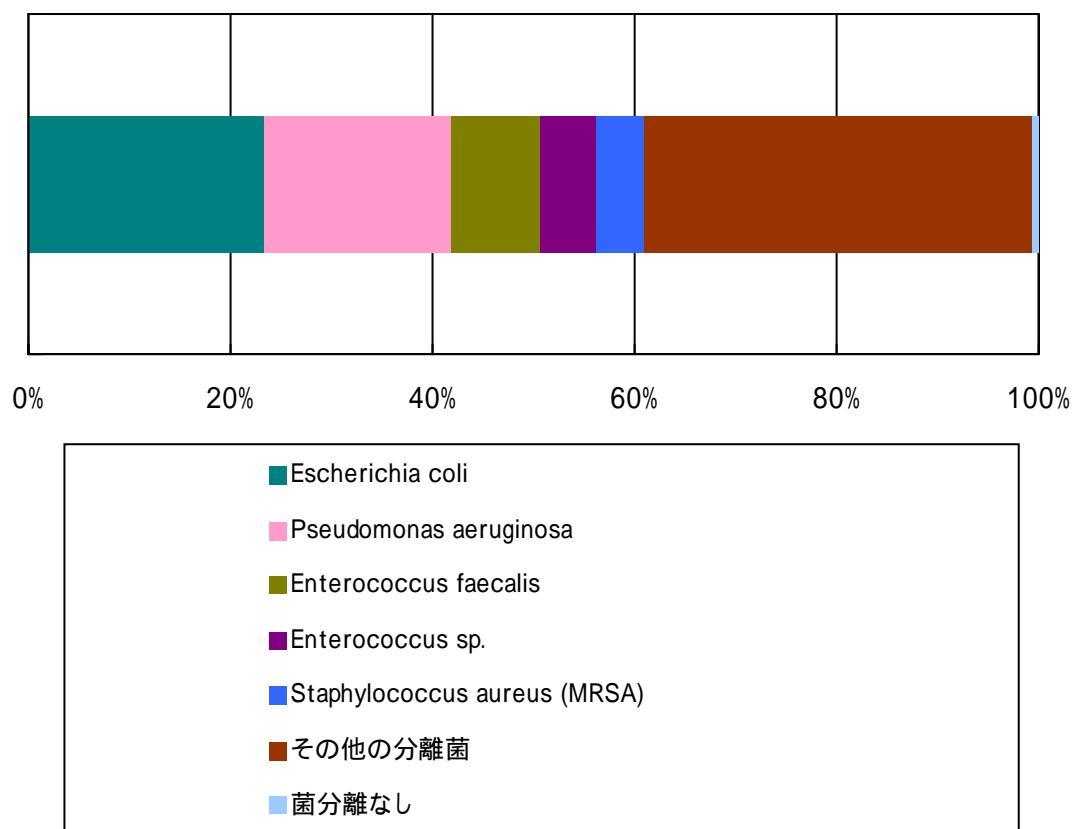
(原因菌は上位5菌種のみ表示しています。)

\*菌名は菌名コード ([http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode\\_ver3.1\\_20070701.xls](http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver3.1_20070701.xls)) に準拠

データ集計日: 2010年10月28日  
公開情報掲載日: 2010年12月09日

4 . 感染症別原因菌 ( 尿路感染症 )

尿路感染症  
( n = 146 )



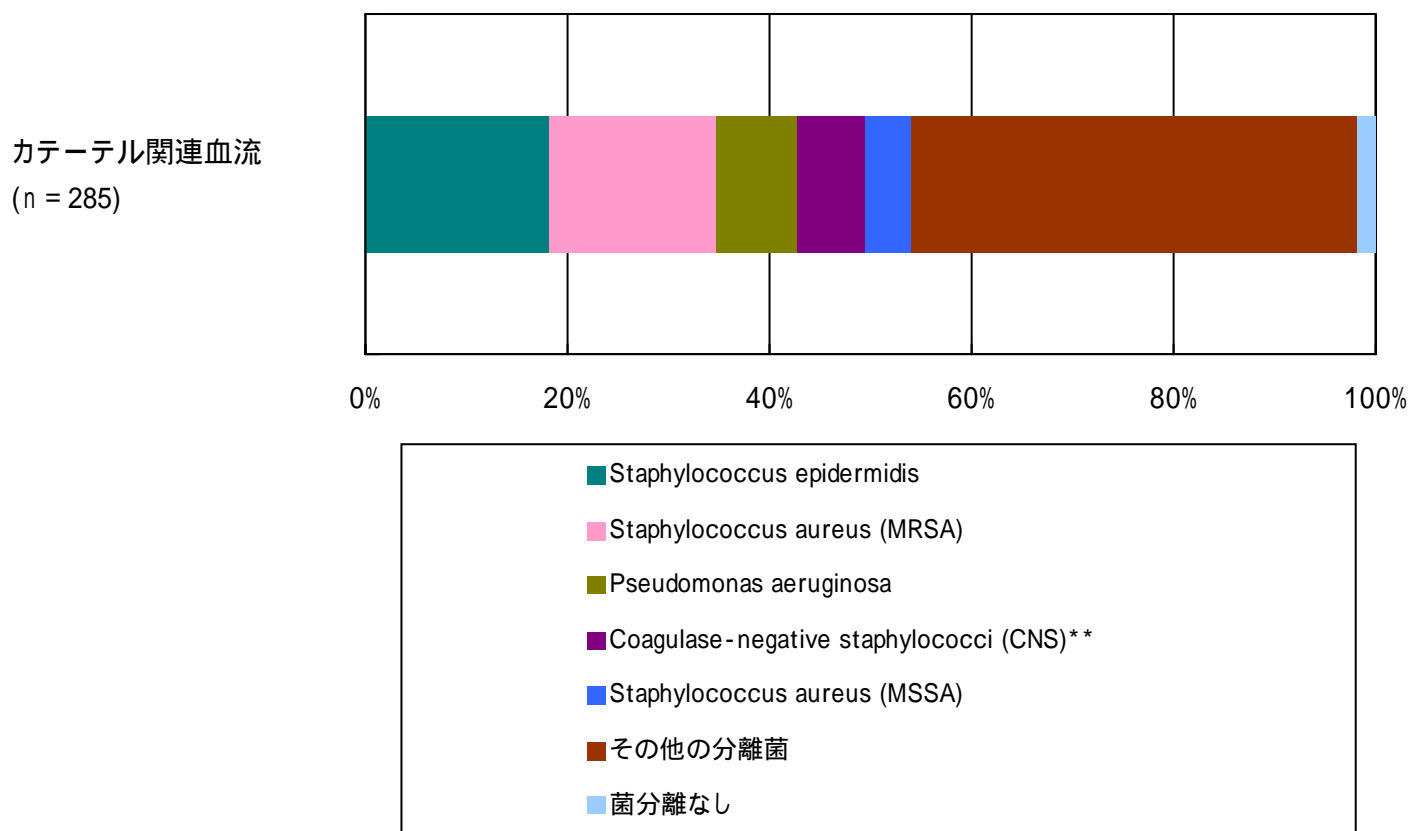
原因菌 *	原因菌分離件数 ( % )	
Escherichia coli	34	(23.3%)
Pseudomonas aeruginosa	27	(18.5%)
Enterococcus faecalis	13	(8.9%)
Enterococcus sp.	8	(5.5%)
Staphylococcus aureus (MRSA)	7	(4.8%)
その他の分離菌	56	(38.4%)
菌分離なし	1	(0.7%)
合計	146	(100.0%)
培養検査なし	4	

(原因菌は上位5菌種のみ表示しています。)

\*菌名は菌名コード ([http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode\\_ver3.1\\_20070701.xls](http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver3.1_20070701.xls)) に準拠

データ集計日: 2010年10月28日  
公開情報掲載日: 2010年12月09日

4. 感染症別原因菌（カテーテル関連血流感染症）



原因菌 *	原因菌分離件数 (%)	
Staphylococcus epidermidis	52	(18.2%)
Staphylococcus aureus (MRSA)	47	(16.5%)
Pseudomonas aeruginosa	23	(8.1%)
Coagulase-negative staphylococci (CNS)**	19	(6.7%)
Staphylococcus aureus (MSSA)	13	(4.6%)
その他の分離菌	126	(44.2%)
菌分離なし	5	(1.8%)
合計	285	(100.0%)
培養検査なし	0	

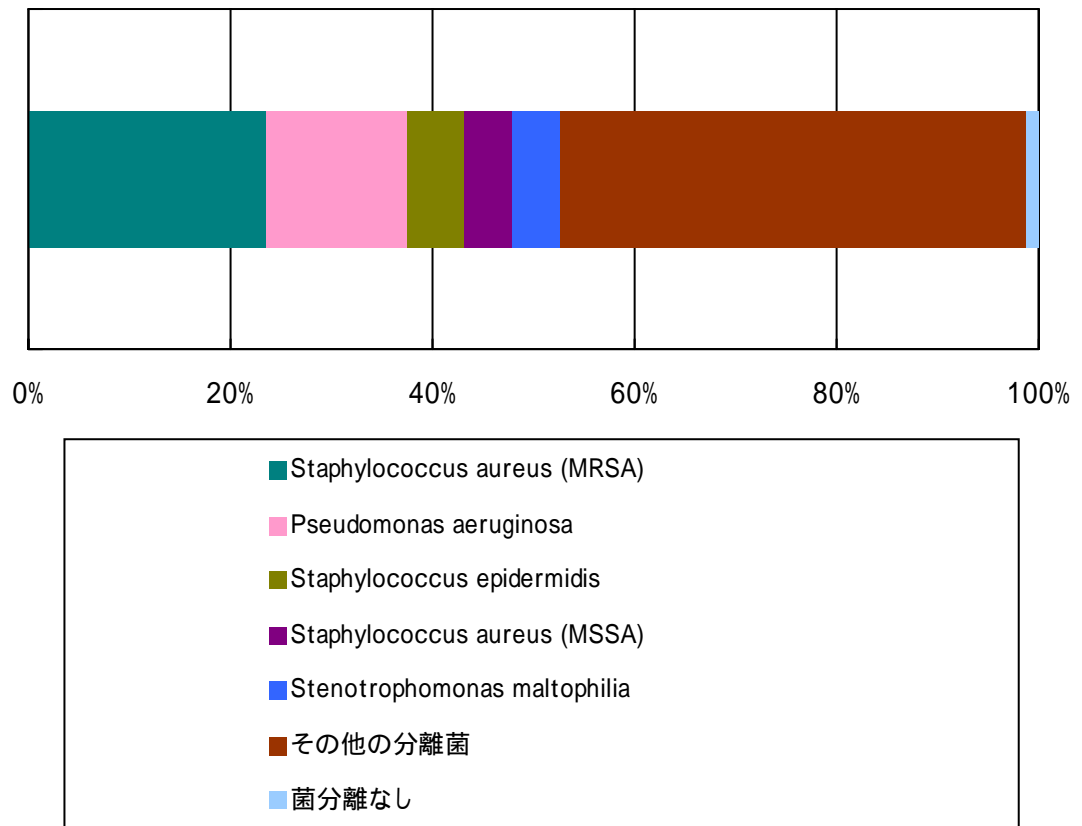
(原因菌は上位5菌種のみ表示しています。)

\*菌名は菌名コード([http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode\\_ver3.1\\_20070701.xls](http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver3.1_20070701.xls))に準拠

\*\*S.epidermidis (菌名コード:1312)と報告された菌は除く

4. 感染症別原因菌（全感染症）\*

全感染症  
(n = 1131)



原因菌 **	原因菌分離件数 (%)	
Staphylococcus aureus (MRSA)	266	(23.5%)
Pseudomonas aeruginosa	158	(14.0%)
Staphylococcus epidermidis	64	(5.7%)
Staphylococcus aureus (MSSA)	54	(4.8%)
Stenotrophomonas maltophilia	54	(4.8%)
其他の分離菌	521	(46.1%)
菌分離なし	14	(1.2%)
合計	1131	(100.0%)
培養検査なし	4	

(原因菌は上位5菌種のみ表示しています。)

\*人工呼吸器関連肺炎・尿路感染症・カテーテル関連血流感染症の合計

\*\*菌名は菌名コード ([http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode\\_ver3.1\\_20070701.xls](http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver3.1_20070701.xls)) に準拠

データ集計日: 2010年10月28日  
公開情報掲載日: 2010年12月09日